

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691300036		
法人名	社会福祉法人丹生谷会		
事業所名	グループホーム水の花		
所在地	徳島県那賀郡那賀町延野字大原40番地1		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は全て県産の木を使った木造建築であり、木の温もりを感じながら生活できるようになっている。落ち着いた文教・住宅地区の中にあるということもあり、新型コロナが蔓延する前までは、近隣小学校の行事へ見学参加したり、事業所内の大きな行事には家族、近隣住民が来所するなど、地域の方との交流を盛んに行っていた。また併設している特養、デイサービス利用者との交流も行っていた。これらは新型コロナが終息すれば再開する予定である。食事は併設している特養栄養士が栄養バランスを考え、季節感や郷土色に彩られ、バラエティーに富んだメニューとなっている。利用者の体調不良時も併設している特養看護師に相談し、適切なアドバイスをいただくことができる。利用者の方には規則正しい生活が送れ、日々楽しみを持ちながら生活していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に小・中学校や住宅地が立ち並び、四季の移ろいを身近に感じることができる豊かな環境に位置している。利用者一人ひとりの思いを大切にしたい理念を掲げている。職員は、理念を念頭におき、利用者が住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことができるよう支援している。感染症(コロナ等)の流行下にあっても、隣接する小学校の運動会を、フェンス越しに見学したり、事業所内のレクリエーションを工夫したりして、利用者が楽しむことができるよう取り組んでいる。感染症対策を講じて、家族や友人・知人の面会を受け入れ、馴染みの関係が途切れないよう努めている。食事は、季節の食材や郷土料理などを取り入れたり、行事食を用意したりして、毎日の生活に楽しみがあるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成してスタッフルームに掲示している。毎朝の申し送り時に唱和し、職員は理念に沿った支援ができるよう努めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。理念は、スタッフルームに掲示したり、申し送りの際に唱和したりして、職員間での共有化を図っている。理念にそって、利用者一人ひとりの思いを大切に、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが蔓延する前までは、近隣小学校の行事に参加したり、事業所の大きな行事には地域住民が来荘して交流を図っていた。新型コロナが終息すれば再開する予定である。	事業所では、近隣の小学校の行事に参加したり、事業所の行事に地域住民の参加を得たりして、交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、フェンス越しに小学校の運動会を見学したり、散歩の際にあいさつを交わしたりして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成協力事業所に登録しており、研修、勉強会等で得た知識を利用者、地域高齢者・住民の方々に向けて活かすように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和3年度からは新型コロナ感染防止のために、会議資料を町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族代表に送付し、意見を求めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、各委員に書面にて、事業所の運営・活動報告を送付しているが、具体的な取り組みや内容等について、意見や助言を得るまでには至っていない。	今後は、各委員に働きかけ、意見を得ることで、さらなるサービスの質の向上につなげられたい。書面による会議においても、事業所への地域の理解と協力を得るため、事業所の報告にとどまることなく、活発な意見交換の機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員の方も運営推進会議メンバーであり、情報交換や問題解決への相談やアドバイスをいただいている。また役場へ出向いたり、電話をかけるなどして協力関係を築いている。	管理者は、定期的に町担当窓口に出向き、事業所の報告や相談を行っている。感染症の流行下においては、電話や郵送によるやり取りも活用し、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外へ出て行きそうな時は止めるのではなく、声掛けしたり荘内・外と一緒に散歩するなどしている。職員は年4回拘束防止委員会を実施、年3回拘束廃止についての研修を受けている。	事業所では、身体拘束に関する勉強会を開催している。全職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束しないケアの実践に努めている。日中は玄関を解錠し、職員の見守りによって、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員年2回虐待防止についての研修を行い、虐待防止の徹底を図っている。また新規職員採用時にも虐待防止についての研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会等に参加して制度について理解し、必要とされる利用者や家族の相談に応じ、制度が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定時に契約書や重要事項説明書等の説明を十分に行い、理解していただけるように努めている。また不安や疑問がある場合は、面会時、電話等で何うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常生活の中で、家族は面会時や電話で利用者の状態を伝えており、その際に意見や要望を聞くようにしている。	職員は、家族等の来訪時や電話連絡の機会に、意見や要望を聞いている。感染症の流行下においても、制限を設けて、面会を受け入れている。出された意見は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する運営委員会やグループ会議の中で職員の意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。	事業所では、毎月開催するグループ会議など、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、日ごろの支援のなかでも職員の意見を聞いている。出された意見は、職員間で話しあったり、運営委員会で法人代表者に伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがやりがいや向上心を持って働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また福利厚生として「あわーず徳島」に加入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんなテーマで施設内研修を行っており、研修担当者も持ち回り制にして発表できるようにしている。また施設外研修もできるだけ多くの職員が受講できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では殆どがWebでの会議や研修であるが、参加時に意見交換し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面会し、話しかける機会を設けている。またできるだけ施設を見学していただき、施設生活での不安をなくし、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には家族、ケアマネ等との話し合いの場を設け、家族が不安に思っていることや要望を把握し、本人が不安なく生活できるよう提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているかを把握できるように努め、事業所としてできる限りの対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずにお互いが共同しながら和やかな生活が送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを家族に伝えることで、事業所と家族が共に利用者を支える環境を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの蔓延で近隣地域行事への参加、自宅・実家近くへのドライブ等はできていないが、知人・家族等が施設へ尋ねて来られ、面会していただく機会を設けている。	事業所では、感染症の流行下においても、対策を講じて、馴染みの人との面会を受け入れている。利用者からの希望があり、感染状況に応じて、馴染みの理・美容院へ行くことを、検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で利用者を観察し、利用者同士で良い関係が保てるような環境作りに努めている。食事する席も楽しく食事できるように配席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も利用者や家族とのこれまでの関係性を大切に、その後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、その方らしい生活が送れるように心掛けている。本人の要望を聞き、実現が可能なことに対しては対応している。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族等から意見や今までの生活歴を聞いて、本人の思いに寄り添うことができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴や馴染みのある暮らし方を聞き取り、情報収集に努めている。また本人の希望や要望に耳を傾け自分らしく過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作を観察し、職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望や要望を聞き取って職員間で話し合い、それらを反映した介護計画を作成するように努めている。	事業所では、利用者や家族等の希望をもとに、職員間で話しあい、その人らしく暮らすための介護計画を作成している。ケース記録等から実践状況を把握し、モニタリングを行っている。定期的な計画の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフト内に一人ひとりのバイタル、食事・水分摂取量、入浴、排泄等の記録、またケース記録として日々の暮らしぶりを記入し、全職員で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内他事業所の管理者、介護士、看護師、ケアマネ等を交えて情報交換を行い、利用者や家族のニーズに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、各種会議、研修等を通じて役場、地域包括支援センター、民生委員等と情報交換を行いながら支援するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関Dr.に定期的に往診していただいている。緊急の場合は受診介助も行っている。またかかりつけ医や本人・家族希望の医療機関への受診は家族へ依頼し、受診できるようにしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等の受診は、家族等の協力を得ている。2か月に1回、協力医の往診がある。同一法人の運営する併設の他サービス施設の看護師とも連携し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護職員はおらず、日々の介護の中で不安に思ったことや、体調不良者等が出た場合には、併設している特養看護師に相談し、適切なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は基本協力医療機関となるが、本人、家族が希望すれば違う医療機関への入院もできるように対応している。また退院後も問題なく施設生活ができるよう、医療機関から情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って、職員、本人、家族等と十分に話し合い、支援できるように努めている。	事業所では、重度化や看取りに関する指針を整備している。契約時の段階で、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認している。関係者間で方針の共有化を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で急変時や事故発生時の対応方法について研修を実施したり、施設外研修へも参加できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、大規模地震、土砂災害を想定した避難訓練を計4回/年行っている。(昼・夜間想定)。そのうちの1回は消防署職員立ち合いのもと行っている。令和3年度は地元消防団の方にも参加していただいた。	年4回、消防署の協力を得て、日中と夜間の火災、地震、土砂災害を想定した災害避難訓練を実施している。感染症の流行下においても、地域の消防団の参加を得て、実践的に取り組んでいる。備蓄品も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループ会議等で問題行動等のいろんな事案を検討し、一人ひとりが楽しく快適に生活できる環境を整え、人格を傷つけずプライバシーの保護に努めている。	職員は、トイレ誘導の際など、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやプライバシーを損ねない支援に努めている。グループ会議等でプライバシーに関する勉強会を開催し、職員間での意識の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、叶えられる範囲で要望に応じている。また本人自身で自己決定しづらい方については、家族から意見を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課の中で一人ひとりの体調の変化や、得意・不得意を考えて自分らしい生活が送れるように職員が観察しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意思で決めている。自己決定が難しい方は、好みに合わせて職員が寄り添い本人の意思に沿った支援ができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、その結果をメニューに反映させている。また季節感や郷土色に彩られた食材も取り入れている。利用者には食卓拭きや下膳等のお手伝いをしている。	食事は、利用者の好みを反映し、旬のものや郷土料理を取り入れて、提供している。炊飯は、事業所で行っている。差し入れの野菜等は、利用者とともに皮をむくなどして、厨房で活用してもらっている。ホットケーキやかき氷等、一緒におやつづくりを行うなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成による栄養バランスのとれたメニューとなっている。また一人ひとり一日の水分摂取量をパソコンソフトに記録しており、全職員が共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後の歯みがきを徹底している。夜間は義歯を外して洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録や習慣から排泄時間を把握できるようにしている。排泄時間のパターンを掴み、なるべく失禁が少なくなるようにトイレ誘導している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の状況や希望に応じて声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康体操やレクリエーション等、身体を動かす機会を設けている。また便秘にならないよう牛乳の飲用や乳製品を接種していただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の体調や気分に合わせて入浴していただき、嫌がる時は無理強いしないように努めている。また菖蒲・柚子湯等季節に合わせた入浴もできるように努めている。	事業所では、少なくとも週2回は、入浴することができるよう支援している。リフトを設置し、重度化した利用者も湯船にゆったりつかることができるようにしている。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯を行い、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操やレクリエーション、作業等で体を動かすことにより、夜入眠しやすい環境になるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が、いつ何の薬を服用するのかが分かるように一覧表と、ファイルにまとめてあり、誰でもが直ぐに閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を聞き取り、その方らしい生活ができるように心掛けている。簡単な作業や食事時のお手伝い等、日々の生活に張り合いが出るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナが蔓延するまでは、近隣ドライブ、遠足、小学校行事の見学等の支援をしていた。令和3年3月、1回につき2人までという条件をつけて桜花見に出かけた。行きつけの病院受診については、家族の協力を得て行っている。	事業所では、気候のいい日に敷地内の散歩に出掛けている。感染症の流行下においても、少人数で桜の花見に出かけたり、隣接する小学校の運動会を見学したりして、利用者が楽しむことができるよう支援している。ドライブも計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム水の花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足等外出時に買い物をする時は、その都度家族に連絡し、お小遣い程度のお金を持って来ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族・知人の方に電話や手紙で連絡が取れるようにしている。家族等から、かかってくる電話にも柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように座席の配置を考え、不快や混乱を招くことがないよう支援している。またホールには季節感が味わえるような飾りつけも行っている。	共用空間は、日差しが差し込み、明るい。壁面には、利用者とともに作成した作品を掲示している。テーブルには、季節の花を飾り、季節感がある。座席は、密にならないよう配慮し、空気清浄機を設置したり、こまめに換気やアルコール除菌をしたりして、感染対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソーシャルディスタンスを保ちながら、気の合った利用者同士がテーブルを囲んだり、一人になりたい時には廊下のソファを利用できるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自宅で使っていた物や、家族の写真等を飾っていただき、利用者にとって居心地のよい環境となるように工夫している。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品、写真等を持ち込んでもらっている。安全面に配慮して、家具の配置を行い、居心地よく、安心して過ごすことができる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、手すりも付いている。環境面で問題が生じた時は職員間で話し合い、安全かつ自立して生活していただけるように改善している。		